

■事故の概況

人と車参照



事故類型：正面衝突

発生日時：雪

当事者A：普通乗用車（4WD）50歳代 男性 ノーマルタイヤ装備

当事者B：普通乗用車（4WD）年齢不明 男性 スタッドレスタイヤ装備

■ 事故の概要

Aは片側一車線のゆるい右カーブの道路を時速約35kmで中央線寄りで走行しています。道路に雪が積もってきたが、A車は4WDなので近距離であればノーマルタイヤのまま凌げると思い、近くのガソリンスタンドまでチェーンを装備せずに向かいました。

対向車線にB車を発見したので、すれ違いに備えて左側に寄って減速しようとブレーキをかけたところ、突然後部が右に流れ始めました。体制を立て直そうとハンドルを右に切ったがそのまま対向車線に進入しつつ、B車と衝突しました。

一方、BはA車がスリップして横になり中央線を越えて自車に向かってきたので、急ブレーキをかけながら、左にハンドルを切って回避しようとしたましたが、左側には縁石があるためそれ以上回避できず、A車と衝突しました。

■ 事故から学ぶ

Aは自車が4WDなので性能を過信していました。ぬかるみなどの悪路で4WDの有利性を過度に期待している人が多いですが、雪道を走行するときは万全ではないことは明らかです。

また、時速約35kmという速度も不適切でした。雪道や凍結した路面で一度滑り出した車はブレーキをかけても効かず、「ぶつかる」か「勢いがなくなる」まで止まりません。雪道を走行するためには、タイヤチェーンあるいはスノータイヤ等の滑り止めの装置を必ず装着して、良い条件で運転しているときの何倍もの注意を払って安全運転をするようにしましょう。